

論文審査の要旨

報告番号	甲・㊦ 第 2966 号	氏名	一政 克朗
論文審査担当者	主査 吉田 仁 教授 副査 村上 雅彦 教授 副査 瀧本 雅文 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>約 380 倍の超拡大観察が可能である大腸 endocytoscopy では、細胞の核と腺腔の形態を評価することで、腫瘍、非腫瘍に加え腺腫、浸潤癌の鑑別が可能である。</p> <p>著者らは、大腸における endocytoscopy の至適染色法について検討を行った。</p> <p>【方法】30 名の患者を対象とし、3 種類の染色法をそれぞれ 10 名ずつに割り当てた。</p> <p>① 0.05% crystal violet (CV)、②1% methylene blue (MB)、③CV と MB の混合染色 (CV+MB) これらを直腸の正常粘膜に散布し、核と腺腔の視認性を ‘recognizable’、‘not recognizable’ の 2 段階に分けて、‘recognizable’ に到達する時間の平均値を各染色法で比較検討した。</p> <p>【結果】核においては、MB と CV+MB で ‘recognizable’ 到達時間が 102 ± 27 vs. 89 ± 22 秒 ($p=0.263$)。また CV では核は認識できなかった。腺腔においては、CV+MB が MB に比べ有意に早い時間で ‘recognizable’ に到達した (61 ± 16 vs. 108 ± 24 秒, $p < 0.001$)。</p> <p>本研究は大腸 endocytoscopy における至適染色法が 0.05%クリスタルバイオレットと 1%メチレンブリーの 2 重染色であることを明らかにし、大腸疾患の診断学において学術上価値がある研究であり、学位に値するものと判断した。</p> <p>論文題名 : Double staining with crystal violet and methylene blue is appropriate for colonic endocytoscopy: an in vivo prospective pilot study (大腸 endocytoscopy における至適染色法の検討)</p> <p>掲載雑誌名 : Digestive endoscopy, Vol.26, No.3, P 403-408, 2014 年</p>			

(主査が記載、500 字以内)